

タイ経済指標斜め読み

(2026年6月版)

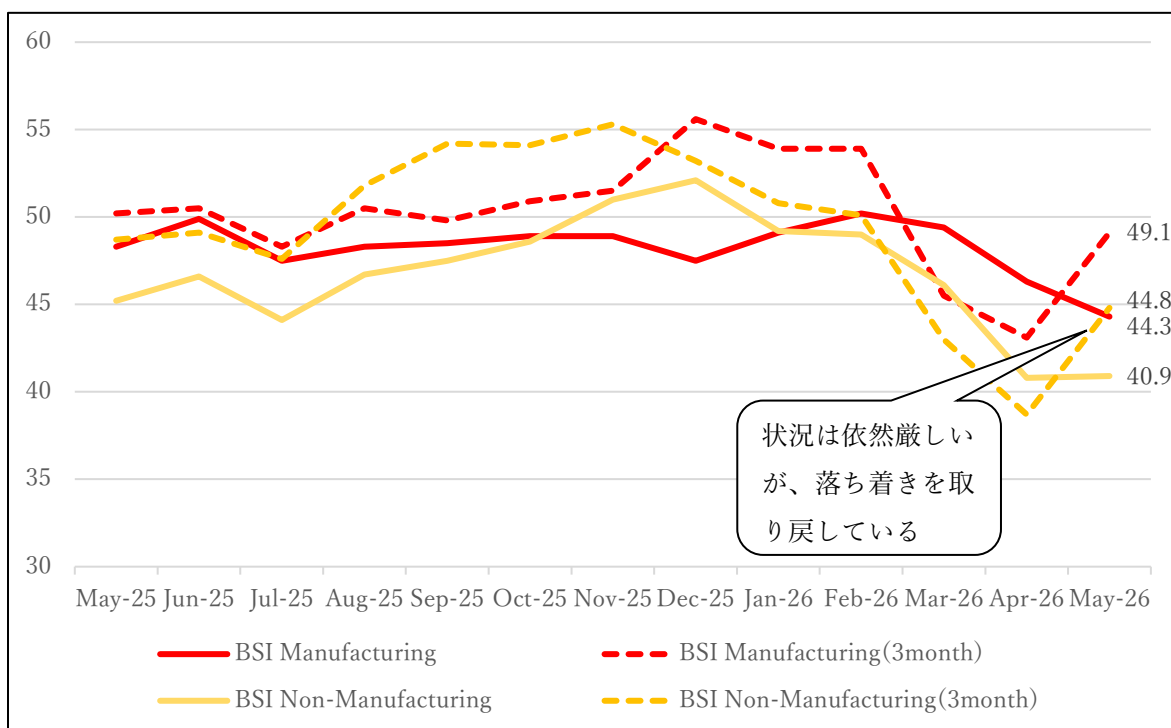
ビジネスサポート部

加藤義人

kato@mat.co.th

■No. 1 ■【指数データ】ビジネス景況感指数

タイ中央銀行 (BOT) は、5月のビジネス景況感指数 (BSI) を発表した。下グラフは、BSIの構成要素である製造業BSIと非製造業BSIとなる。(50=前月から変化なし)

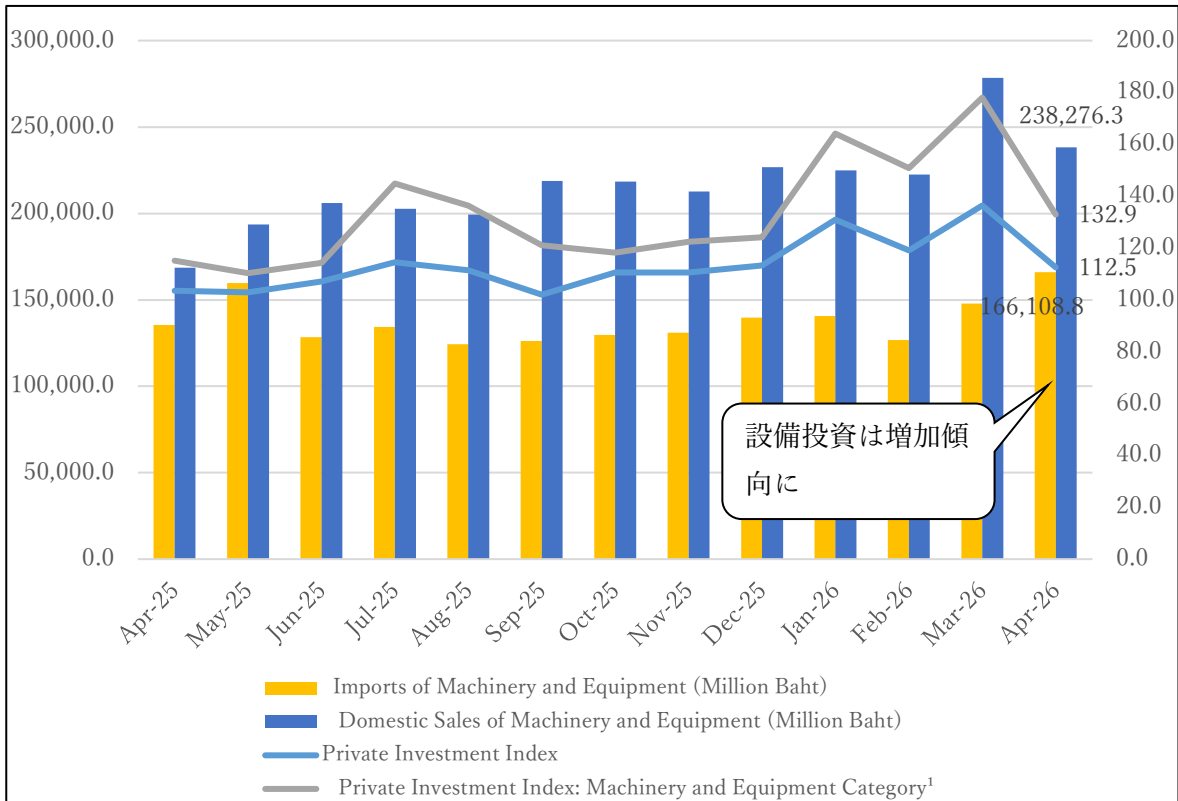


5月の製造業BSIは44.8、同三か月後の期待値は49.1。次に非製造業BSIは40.9、同三か月後の期待値は44.8となった。製造業BSIは3カ月連続で下降となっている。要因として、既に何度も他の指数で示している米・イラン戦争による原油価格の高騰にともなう原材料と燃料費の高騰によるものとなる。一方、同三か月後の期待値は回復基調に向かっている。製造業は原油価格の高騰に対応し始めていることや政府の支援策などで4月に比べて幾分状況は改善してきていると感じている。一方、非製造業BSIは前月から不動で状況は厳しい。とは言え、同三か月後の期待値は一気に4ポイント上昇している。要因として、製造業BSIと同様に、モノの価格が安定してきたことと、政府の景気刺激策や農作物の収穫期などで、購買が増加すると期待されている。とは言え、米・イラン戦争の行方は依然として不透明であり、原油価格も上下を繰り返している状況で、楽観するのはまだ早い。

出所：<https://www.bot.or.th/>

■No. 2 ■【指数・統計データ】民間投資指数・機械輸入額

タイ中央銀行（BOT）は、4月の民間投資指数ならびに機械輸入額と同国内販売額を発表した。（指数：2018年 = 100）

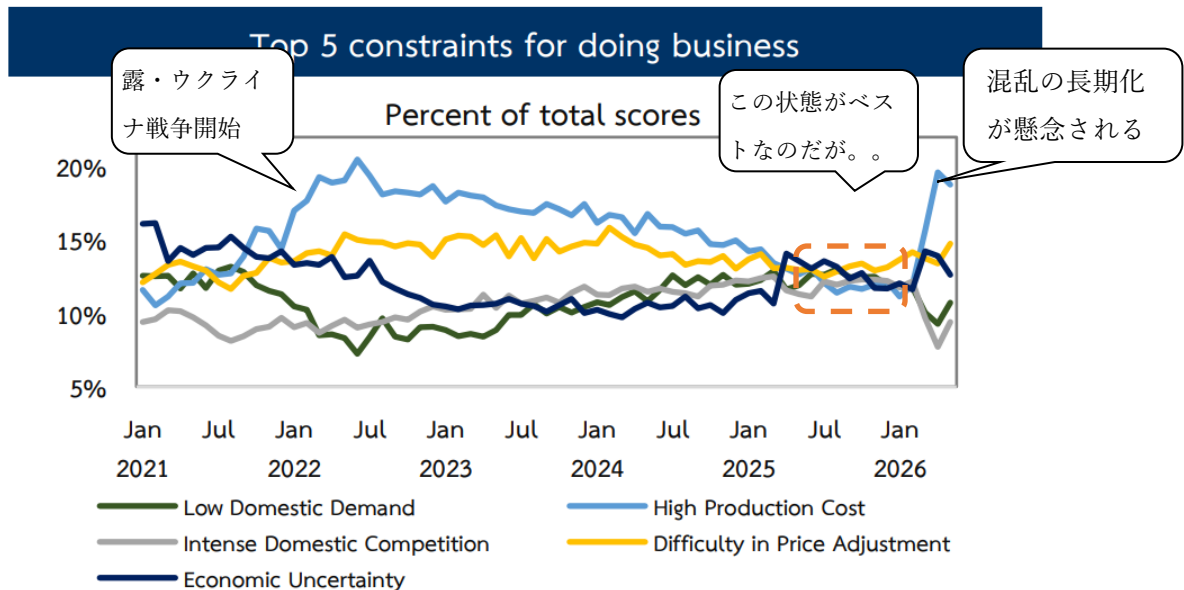


4月の民間投資指数は112.5、同機械部品指数は132.9となった。次に機械部品の輸入額は166,108MTHB、同国内販売額は238,276MTHBとなった。輸入額は増加した一方、国内販売額は減少した。とは言え輸入額は3から4月にかけて増加傾向であり、企業の設備投資は順調に進めているものと見て取れる。また国内販売も米・イラン戦争の余波で輸入に影響が出ることを見据えた輸入増とも言えるが、製造業の設備投資は昨年比でも10%以上増加している。設備の自動化やDXへの投資はこのような状況下でもしっかりと進められていると見て取れる。

出所：<https://www.fpo.go.th/>

■No. 3 ■【調査データ】企業アンケート結果

タイ中央銀行（BOT）は、5月のビジネス上の障害に関するアンケート結果を発表した。この調査はBOTがタイ国内の大中企業666社から回答（回答率60.6%）を得たものとなる。



5月のトップは「高生産コスト」となり、前月から同位置を堅持。次に「価格調整の難しさ」が2位に上昇、3位は「経済の不確実性」、4位は「国内需要の低迷」、5位は前月から同位の「国内競争の激化」となった。「高生産コスト」が引き続き他を大きく引き離れた状態だが、当月に入り下降したことや、「経済の不確実性」も同様に割合を減らしていることが特徴的。一方、「価格調整の難しさ」、「国内需要の低迷」、「国内競争の激化」が上昇し始めており、国内経済の舵取りの難しさが表れている。

出所：<https://www.bot.or.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2026 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。